

若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018

STARTUP GUIDE

》》》 *To draw the national vision of future*

国家デザインテキストブック (ダイジェスト版)

このテキストブックは参加者の皆さまに配布するものの一部を抜粋したダイジェスト版です。コンテストへの参加のイメージを膨らませるためのご参考としてご覧ください。

「最も夢あふれる日本の未来を決めるコンテスト」

—————あなたの声が、30年後の日本を創る

これから皆さんが取り組む未来国会は「未来の日本を創る」若者世代が、日本社会に対して”未来の在り方を提案する”ことを目的とし、「最も夢あふれる日本」を決めます。

これから皆さんには、30年後の日本の未来性（わくわくする日本の姿）と、10年後の重点政策・予算案（有権者の若者を納得させる現実性）を考えていただきます。

そして、未来国会に取り組むにあたって、まず何よりも必要なことは、皆さんが「30年後の日本をどのように夢あふれる日本にするのか」を明確に意識することです。

では、30年後に「夢あふれる日本」というのは、どのようなものでしょうか？
一番簡単に想像できるのは、”自分が「心から」わくわくする日本”です。

現在の価値観では許容はされないかもしれないけれども、あなたが心から望んでいることはありませんか？

「複数人と結婚してもいいのではないか？」 「年長者より若い人を敬うべきではないか？」

そんな、本音を皆さんは持っていませんか？

当コンテストで皆さんが発表するプランには、そんな皆さんの「本音」「心からの夢」を存分に反映してください。

一方で、理想だけを語っていても、実現はできません。

皆さんの「本音」を実現するためには、現状を踏まえることが大切になってきます。

現状の日本には良いところ、悪いところ、多々存在します。

それらの現実と本気で向き合わなくてはなりません。

そこで、30年後の未来を描き導き出したビジョンをもとに

現在の日本の課題を今後はどんな方法で解決し、その方法にいくら予算を使い、どんな未来を創るのか。

皆さんの経験や知識の中から、いかに斬新で創造的かつ効果的な解決策を導きだせるか。

そして、誰よりも「夢あふれる日本」を考えられるか。

これが未来国会2018です。皆さんの夢あふれる発想を期待しています。

さあ、あなたの声を日本中に届けよう—————

はじめに

- ・ 未来国会とは
- ・ ルール

プロローグ「30年後の未来を考える」

- ・ 政策デザインのプロセス

ビジョン編「30年後の理想の日本を考える」

- ・ ビジョンとは
- ・ 未来の問題をとらえる
- ・ 現在の問題をとらえる
- ・ 問題を解決してビジョンを創る
- ・ 未来のアイデアを起点にビジョンを創る

政策編「ビジョンを実現する政策を考える」

- ・ 重点政策とは
- ・ 様々な分野から政策を考える
- ・ 誰が政策の主人公か考える
- ・ 政策の内容を詰める
- ・ 最終チェック

予算編「限られた予算の中で優先順位をつける」

- ・ なぜ予算を考えるのか
- ・ 重点政策に必要な経費を考える
- ・ 予算に対する少子高齢化の影響
- ・ 歳出の節約方法を考える
- ・ 新たな財編の生み出し方考える
- ・ まとめる

プレゼン編

「未来国会」とは

もし自分が総理大臣だったら、日本をどんな国にしたいですか？

「未来国会」は、若者による国家デザインコンテストです。

「もし自分が総理大臣だったら」というテーマのもと、次代を担う皆さんが30年後の国家ビジョンを掲げ、それを政策・予算案にまで落とし込むことで、

「若者らしい斬新且つ、現実性を備えた夢」を競い合う提案型プログラムです。

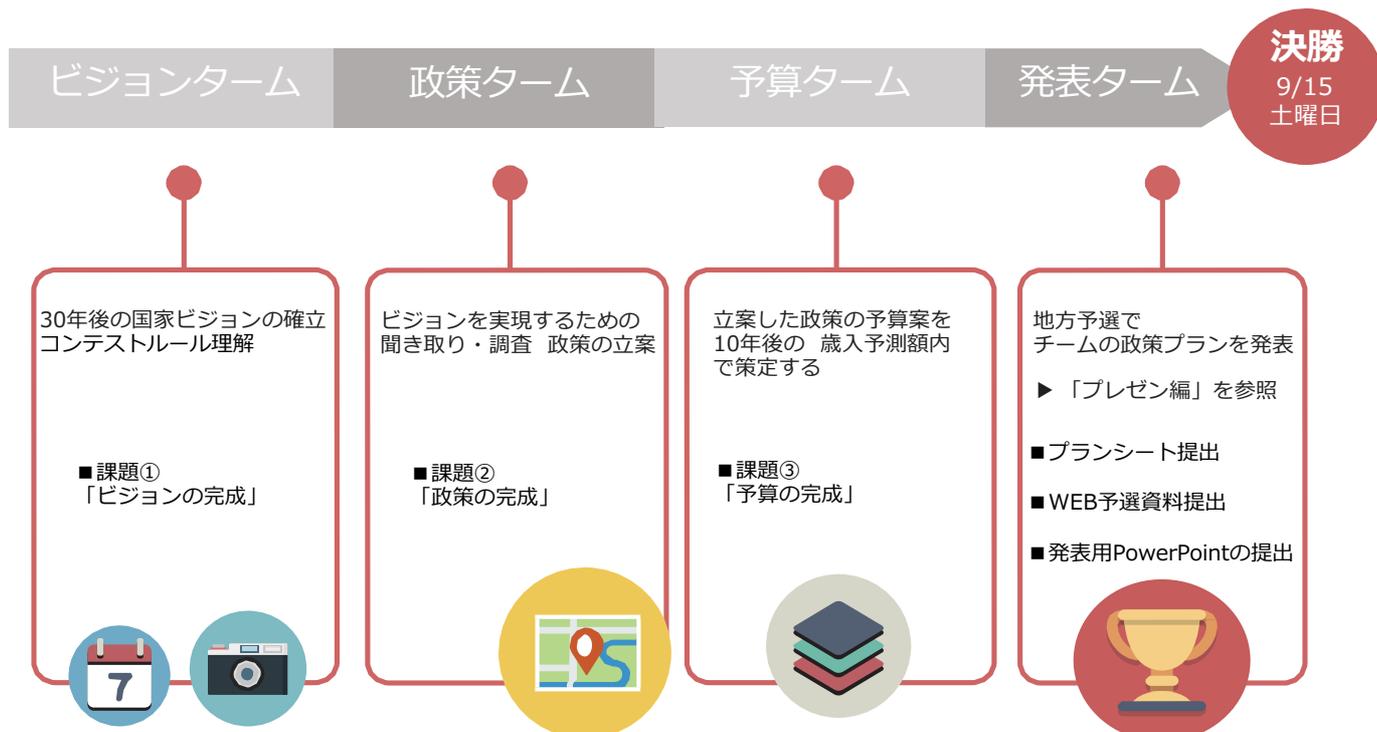
「未来国会」の全体像

全4回のイベントを通して、自分が総理大臣になったつもりでプランを練り上げます。

※プランは、以下の3項目を含むことを必須とします。

1. 30年後の国家ビジョン
2. 重点政策
3. 予算案

最終セッションでは、観覧者（有権者）の前でプレゼンテーションを行い、最優秀チームを決定します。



プロローグ

「30年後の未来を考える」



若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018



政策デザインのプロセス ～本書の仕組み～

政策とは何でしょう。政策を考えるととはどういうことなのでしょう。

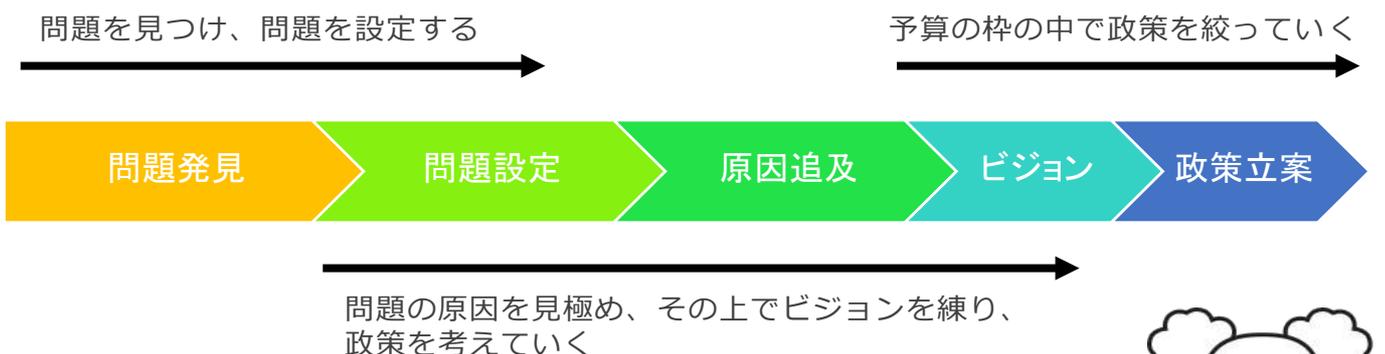
未来国会は、「30年後の日本の未来を構想し、そのための10年後の政策・国家予算を考える」というコンセプトのもと、この国の進むべき道を考えていただき、それを成し遂げるための政策を「予算」という限られた枠の中で考える、国家デザインコンテストです。

しかし、多くの人は政策をつくる、考えるという経験がないと思います。そこで、未来国会2017では、参加者皆さんに対してこの国家デザインテキストブックを通じて、政策をつくる、デザインするノウハウを身につけていただき、皆さんが思い描く30年後の日本をつくる政策を考えていただきます。

政策デザイン (= 政策をつくること) には、順序があります。このワークブックでは政策デザインの作法を解説していきますが、下の図をご覧ください。この図は、政策をデザインする際の順序図になっています。政策とは、大雑把に定義をしまえば、世の中にある何らかの問題を解決するためのプランのことです。政策をつくる前には、何か問題を見つけなくてはなりません。問題を見つけたら、なぜそれが問題なのかを考え、問題が起きている原因を究明する必要があります。問題の原因がわかれば、その問題を解決するための「解決策」、つまり政策をやっと組み立てることができます。

本書を順番に最後まで読み進めていくと、この政策デザインのプロセスが自然にわかるようになっていきます。まずはプロセス全体を把握したいという人は、本書の【ビジョン編】【政策編】を読んでください。

■ 国家政策デザインの流れ

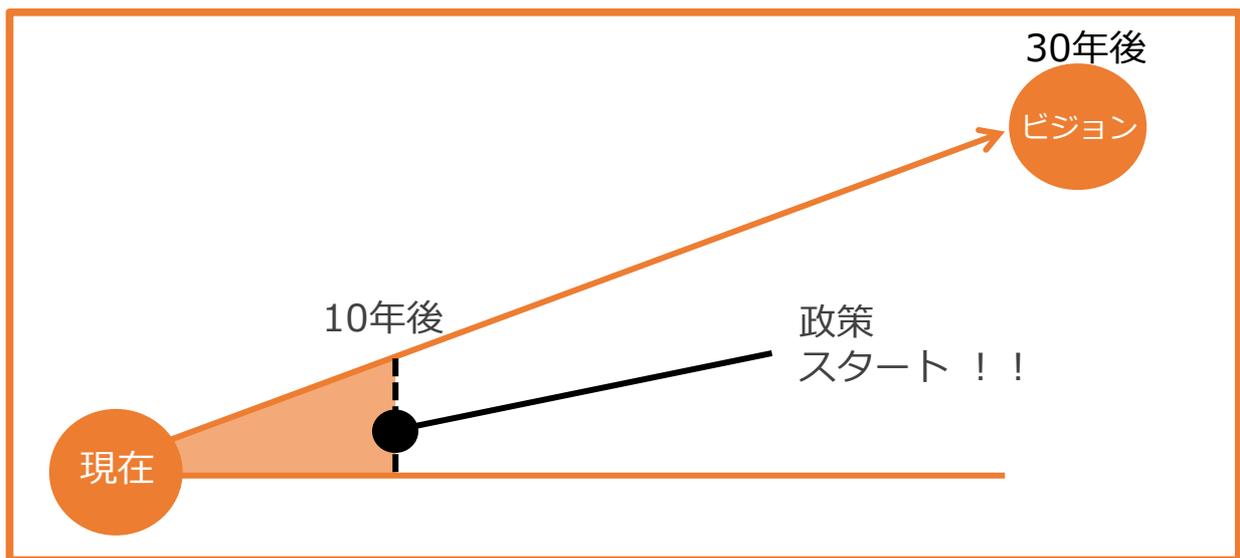


頭の整理は出来ていますか？



あなたがこれから描く理想の日本は「30年後」の未来の日本です。そして、それを実現するため、10年後に実行する政策とそれにかかる予算案を考えてください。

10年も経つと、人も変われば世の中の状況も変化してきます。今、必要であると考えていたものが、10年後には必要なくなっているかもしれません。その状況に合わせて、今の法律も条例も変えることができるでしょう。現行の法律や条例を前提とせず、理想の日本を実現するための政策・予算案を自由に発想してみてください。



なぜ、「30年後」の未来を考えるのでしょうか？

たとえば100年後の理想の日本を描いても、100年後あなたはもうこの世にいないでしょう。誰も自分が死んだ後のことに責任は持てないものです。**自分が成否を見届けられるスパンで、責任を持ってビジョンを描いて欲しいのです。**

30年後というのは、いわば「自分たちが、責任をもって創らなければならない未来なのです。」

では、なぜ政策・予算は「10年後」のものなのでしょうか？

何かを変えようと思って行動を起こしても、すぐにはなににも変わりません。政策を変え、予算を変え、制度を変え、国を変え、地域を変える。何かを変えようと思ったとき、多くの時間が必要です。未来国会では参加者の年齢を考慮し、皆さんが想像できる最長の期間として、思い通りの変革が始められるまでを10年間、変革を初めてから理想が実現するまでの期間を、皆さんがいままで生きてきた期間である20年と設定しました。

この20年間で社会が、政治がどのように変わったか、皆さんの体験してきたことと重ねあわせながら“何をすれば、どのくらい変わるのか”、生活様式、価値観などあらゆる方面から思いをはせて考えてみてください。

ビジョン編

「30年後の理想の日本を考える」



若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018



◇はじめに

『誰もが働かないで遊んで暮らせる国』

これを聞いて皆さんは何を考えますか？「そんな国あるわけない。そんな国作れるわけない。」と、思う方がほとんどではないでしょうか。確かに全世界見渡しても、そのような国は聞いたことがありませんし、探しても存在しないかもしれません。しかし将来、日本の労働人口の約49%が人工知能で代替可能になると予測されています。**今、あなたができないと思っていることは時間とテクノロジーが解決してくれるかもしれません。**

ただし、これは現時点での予測に過ぎず、実際には外れるかもしれません。未来は予測したり、想像したりすることはできますが、本当にその通りになるのかは分かりません。未来は不確実で、それ故あらゆる可能性に満ちています。**私たちは自由に未来を描くことができ、そしてそれが実現する可能性は十分にあるのです。**

さて、今まさに、あなたは10年後の総理大臣になり、その時点から20年後の日本のビジョンを国会で提案しようとしています。**あなたはどのような日本の未来を描きますか？**

◇ビジョンとは

ビジョンとは、30年後の理想の日本の姿です。ビジョンには、皆さんが描く「30年後の国民の理想の生き方」「30年後の幸せの在り方」を含めてください。

これからみなさんと、現在と未来を俯瞰したうえで生じた問題意識や、予想されている未来のテクノロジーをもとに30年後のビジョンを考えます。いきなり「ビジョンを策定しなさい」と言われても大変ですので、ビジョンを創るモデルをお示しします。ビジョンを創る方法は「これは嫌だな、どうにかしたいな」と思う「**問題**」を解決する方法と、「**未来の日本をこんな国にしたい!**」という夢や本音をもとに設定する方法の2つに大きく分かります。

本編では、「未来の問題を捉える」「現在の問題を捉える」「問題を解決してビジョンを創る」「希望・願望を実現する」「ビジョン案を収束する」という流れでビジョンの策定方法を紹介しします。

政策編

「ビジョンを実現する政策を設計する」



若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018



◇重点政策とは

政策とは政府が主導する方針全般を指し、重点政策とは「**ビジョンを実現するために特に重要な方針**」と定めます（※政策の定義は諸説ありますが、本コンテンツでは、そのように定義します）。ビジョン編に引き続き、政策の創り方も一緒に考えていきましょう。本編では「様々な分野から政策を考える」「誰が政策の主人公か考える」「政策の内容を詰める」「最終チェック」という順序で政策の創り方を紹介します。

◇様々な分野から政策を考える

ここでは例として「国民が、あまり仕事をせず、遊んで暮らす」というビジョンの国を取り上げます。とりあえずまずは、「どうすればビジョンを実現できるのか」という条件を考えてみましょう。このビジョンを見て最初に考えることは、「あまり仕事をしないで、国民はどうやって生活費を得るのか」などではないでしょうか。そのため「国民が仕事をあまりしなくても、国が回る経済システムを考えよう」というように、「経済」や「労働」に関する政策は思いつきやすいでしょう。しかし、「経済」や「労働」に関してのみ政策を創るだけで本当に十分でしょうか？他にも考えるべき点があるような気がします。そのような抜け洩れを防ぐため、**ビジョンを実現させる条件を様々な分野から考えてみましょう**。

■様々な分野から考えるとは

日本の中央省庁は、内閣府、復興庁、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛省、国家公安委員会（警察庁）という1府11省2庁からなります。したがって、日本という国は14個の分野・要素から成り立っていると言えるでしょう。

つまり、**それぞれの分野から「どういう状態になればビジョンが実現するか」**を考えれば、抜け洩れなくビジョンを実現させる条件を考えられます。

ここでは例として14個の分野・要素のうち「労働」「教育」「防衛」の観点から、「国民が、あまり仕事をせず、遊んで暮らす」というビジョンを実現するには、どのような状態になればよいか考えてみましょう。

予算編

「限られた予算の中で、優先順位をつける」



若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018



過去の日本や海外の似たような事例から、重点政策に必要な経費を概算する場合は以下のような流れで考えると良いでしょう。

①自分たちの政策の目的と共通する事業を探して、経費を調べる。

例えば、自分たちが考えた政策と同じ分野では、これまで政府はどのような事業をしてきたのか「行政事業レビュー」から調べてみてください。調べた結果、似た分野の中でどのような事業が行われているか分かるはず。そして、その事業がどのような予算を組まれて行われているのか、調べてみてください。

②既存の政策と自分たちの政策の違いを考える。

何にどれくらいの予算が使われているのかがわかったら、調べたそれらの事業と自分たちの政策/事業はどのような点で違いがあるのか考えてみてください。手段が違うかもしれませんし、規模が異なるかもしれません。

③その違いがどんな予算上の変化を生むのか考える。

上で調べた事業と自分たちの政策/事業の違いが分かったら、その違いが予算に与える影響を考えてみましょう。手段や規模が変わると、その分だけ経費も変わるはず。です。

以上のように、ここでは「重点政策を、実行するのに必要な人や材料のレベルまで分解する」という考え方と、「過去や海外の似た事例を参考にする」という考え方を紹介しました。重点政策を実行するのにかかるお金は概算できたとして、次に「予算に対する少子高齢化の影響」を考えましょう。

◇予算に対する少子高齢化の影響

少子高齢化により、10年後は子供の人口が減少して高齢者の人口が増加すると予測されています。この影響を受けて、もしも今と全く同じ政策やルールで10年後の国家予算を考えるならば、社会保障費は現在の約120兆円から10年後は約149兆円に増加すると予測されていますし（厚生労働省発表）、義務教育費国庫負担金も現在の約1兆5千億円から減少することでしょう。

（教育にかかるお金は地方自治体に依存しているところが大きく、教育の分野の歳出は社会保障費に比べるとかなり小さいです。）

年齢	2015年	2025年
65歳以上	約3400万人 (27%)	約3700万人 (30%)
15歳～64歳	約7700万人 (60%)	約7000万人 (59%)
14歳以下	約1600万人 (13%)	約1300万人 (11%)

2015年と2025年の人口の比較
内閣府発表。%は全人口に占める割合。

若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018

START UP GUIDE

>>> Draw the national vision of 2048

国家デザインテキストブック（ダイジェスト版）

※ 本書の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

若者のための国家デザインコンテスト

未来国会2018

